

大阪府におけるキク部位別のアザミウマ類の発生

○城塚可奈子¹・宮崎 江里²・柴尾 学¹

(1 大阪環農水研、2 大阪府病害虫防除所)

キクに発生するアザミウマ類は、ミカンキイロアザミウマ（以下、ミカンキイロ）、ヒラズハナアザミウマ（以下、ヒラズハナ）、ミナミキイロアザミウマなど 16 種が知られている。大阪府内のキクにおいてもミカンキイロやヒラズハナなどの発生がこれまでに確認されている。しかし、静岡県、沖縄県、鹿児島県のキクでは近年、クロゲハナアザミウマ（以下、クロゲハナ）の多発生が報告されている。また、キクではないが大阪府内の野菜や果樹ではネギアザミウマが多発しているなど、近年の発生種については確認が必要な状況にある。そこで、府内のキクにおけるアザミウマ類の発生種をキク部位別に調査したので報告する。

=方法=

八尾市および羽曳野市のキク圃場（各 2 圃場）で 2016～2017 年に調査した。2016 年は（1）6 月羽曳野市 I で 63 葉、（2）8 月八尾市 I で 90 葉、（3）10 月羽曳野市 I で 146 花、（4）10 月羽曳野市 II で 100 花、2017 年は（5）5 月八尾市 I で 30 花、（6）5 月八尾市 II で 90 葉、（7）6 月八尾市 I で 30 花と 90 葉、（8）6 月八尾市 II で 80 新芽、（9）6 月羽曳野市 I で 60 花、（10）6 月羽曳野市 II で 80 新芽を採取し、捕獲された成虫 14～90 個体の種を同定した。なお、（6）5 月八尾市 II の 90 葉では幼虫しか捕獲されなかったため、採取したキク葉を餌として飼育し、羽化した成虫 90 個体を同定した。

=結果=

2016 年：アザミウマ類の主要な発生種は、（1）6 月羽曳野市 I の葉ではクロゲハナ 93%、（2）8 月八尾市 I の葉ではクロゲハナ 100%、（3）10 月羽曳野市 I の花ではコスモスアザミウマ 56%、（4）10 月羽曳野市 II の花ではコスモスアザミウマ 58%であった。

2017 年：アザミウマ類の主要な発生種は、（5）5 月八尾市 I の花ではミカンキイロ 76%、ヒラズハナ 22%、（6）5 月八尾市 II の葉ではクロゲハナ 92%、（7）6 月八尾市 I の花ではミカンキイロ 90%、葉ではミカンキイロ 72%、クロゲハナ 18%、（8）6 月八尾市 II の新芽ではミカンキイロ 86%、クロゲハナ 13%、（9）6 月羽曳野市 I の花ではミカンキイロ 50%、ヒラズハナ 27%、（10）6 月羽曳野市 II の新芽ではネギアザミウマ 100%であった。

=考察=

府内のキクにおけるアザミウマ類の発生種では、従前に比べてクロゲハナやネギアザミウマの加害が増えていると考えられた。また、葉ではクロゲハナ、花ではミカンキイロやコスモスアザミウマ、新芽ではミカンキイロやネギアザミウマなどの発生が多く、アザミウマ類の発生種はキク部位により異なることが明らかになった。

Occurrence of thrips species in different parts of *Chrysanthemum morifolium* in Osaka Prefecture.

Kanako Shiotsuka*¹, Eri Miyazaki*² and Manabu Shibao*¹

*¹ Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture, *²: Osaka Plant Protection Office